



若南プライド

令和7年10月23日 文責：永関 修

伝統は、このように引き継がれていくものだと実感

2学期は、芸術の秋と呼べる行事が目白押しです。9月には、小中ふれあい合唱交流会



が行われました。まず感じたのは、中学生の「大地の歌」の声の美しさです。ソプラノ、アルト、バスの混声3部合唱の調和の取れた歌声から、中学生の練習の真剣さが垣間見えた瞬間でした。特に、低音の男子の響きは、中学生ならではの威厳に満ちた声でした。そして、生徒が指揮者を務め、その腕の振りや表情、堂々とした態度で合唱団に合図を送る姿は、小学生にとっては圧巻の光景でした。まるで、見えない糸で引っ張られているかのような一糸乱れぬ姿に感動したのは、私だけではないと感じました。また、小学生が歌った「帰りの会のサンバ」では、思春期真っ只中の中学生が頭を左右に動かしてリズムにのって温かい笑顔で小学生の歌を聴いてくれた姿に感動しました。緊張もほぐれ、温かい会場の雰囲気の中、元気いっぱい

に発表できました。本校の子ども達の歌声はリズム感がよく、気分がノリノリで何度聴いても心が澄み渡るすてきな声でした。若草南小や若草小を卒業してから、大きく成長した中学生と出会えた教師たちも微笑む姿が見られました。子ども達は、共に過ごした時間を共有しながら憧れる先輩たちの姿に感謝し、中学生は小学生だった頃の自分の姿に思いをはせ、自分たちの成長を感じながら伝統ある行事に感動を覚えました。



また、忘れてはいけない存在がいます。それは、年間に渡る歌声タイムを計画し、全校の皆に音楽の楽しさやすばらしさを届けてくれている音楽委員会の存在です。この合唱交流会の進行はもとより、掲示用の大型の歌詞の設営、会場のピアノの移動や設置、マイク・タブレットの準備、終わった後の素早い片付け等、率先して取り組んでいる5、6年生の姿が見られます。目立たない所で若南の大黒柱として活動続けるリーダーの姿勢は下級生のお手本となり、本校の伝統が引き継がれています。心から感謝しています。。

大きなおいも おいしそうだね！

10月には、秋の味覚であるサツマイモを収穫しました。1年生の生活科で教室の前の学年園で一年間育ててきたサツマイモがなんとたくさん取れました！

1年生の愛情が伝わったのでしょね♡



自分の顔ぐらいの大きさのおいもが取れてみんなびっくり！！そして大喜び！！大地の恵みに感謝です！いものつるは、早速リースづくりの材料に変身しました！おいもは、ふかして食べる計画！です。楽しみがいっぱいですね。



わかばとたんぽぽのクラスでは、おいもを使って“スイートポテト作りに挑戦しよう！”ということになり、みんなわくわくしながら、計画を立て、家庭科室で調理することになりました。まずは、ふかして柔らかくなったおいもを大きめのジップロックに入れま

す。なんと、隠し味でバニラアイスも入っているみたいです。

子ども達は「おいしくなあれ！おいしくなあれ！」と魔法をかけながら、さらに粒粒がなくなるまでつぶしていきました。次に、ジップロックの隅っこにおいもを寄せて、はさみで角を一か所切って、ケーキの生クリームを絞り出すように銀紙に入れていきます。ちびっ子パティシエの表情が素敵でした。さて、オーブンでしっかり焼くと出来上がり！！おいしそうなスイートポテトの完成です。



実は、おいしそうなスイートポテトですが、男の子が一人食べずにながめていました。そして、「かぶと虫の幼虫みたい。。。」「いえにもってかえりたいなあ。。。」、昆虫を愛する私には、何ともかわいらしい言葉にほっこり笑みがこぼれた瞬間でした。

さて、2学期後半。音楽祭に向けての練習も始まり、“芸術の秋”の始まりです。子ども達の練習の成果を楽しみにみていただければ幸いです。

